

## 会 議 録

会 議 名	第8回米原市いじめ問題対策連絡協議会
開 催 日 時	平成30年11月15日（木）午後7時～8時35分
開 催 場 所	米原市役所 米原庁舎 会議室2 A
出席者および欠席者	出席者：平尾道雄市長(会長)、山田三穂子員、藤本博文委員、岡田英基委員、山本太一委員、有川博延委員、上村平委員、中島紳一委員、吉田待子委員、宮永房一委員、堀江雅行委員、河居郁夫委員、堤基久男委員 欠席者：岩田俊幸委員、吉田正子委員、桂恵美子委員 米原市：西澤人権政策課長、一ノ宮学校教育課長、西脇主幹、嶋田主幹、坂主事
議 題	<b>【報告事項】</b> ① 平成30年度米原市におけるいじめ事案の概要について ② 平成30年度米原市いじめ問題専門委員会の取組について ③ 平成30年度STOPいじめ生徒会フォーラムについて <b>【意見交換】</b> テーマ「米原市の実情から考える」
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	事務局から報告事項を説明した後、意見交換を行った。それぞれ関係機関の取組について情報を共有し、更なる連携の必要性を確認した。また、次回から家庭や地域での啓発について、議論していくことになった。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  会長（平尾市長）	1 開会（平尾市長挨拶） 本日は、関係機関をはじめ、各種団体の代表者、関係課の行政職員などが、米原市の子どもたちのために知恵を出し合うことで、実りのある協議会にしていきたいと考えている。どうか忌憚のない意見をいただき、この協議会が活発な議論の場となることをお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。  2 委員紹介 《過半数の委員が出席しており、協議会が成立している旨報告される》  3 議事 本日は、報告事項3件について、審議いただきたい。その後は、委員の皆様にご意見交換をしていただく時間を設けているので、よろしくお願ひしたい。なお、会議は公開とさせていただいているので、御理解願ひたい。  <b>【報告事項】</b> ① 平成30年度米原市におけるいじめ事案の概要について（事務局説明） 《米原市情報公開条例第7条第5号の規定により非公開》  <b>【報告事項】</b> ② 平成30年度米原市いじめ問題専門委員会の取組について（事務局説明）

	<p>《米原市情報公開条例第7条第5号の規定により非公開》</p> <p><b>【報告事項】</b></p> <p>③ 平成30年度STOPいじめ生徒会フォーラムについて（事務局説明） 《資料4① 米原市情報公開条例第7条第1号の規定により非公開》</p>
会長	<p>それでは、今までのところで何か意見や質問があればお願いしたい。</p>
委員	<p>今年度、「STOPいじめ米原生徒会フォーラム」で始めて小学生が参加させていただいた。6年生は単学級のためクラスの代表という感覚であり、児童会組織は非常に弱く、委員会活動が平行して行われている。また、児童会長がいるわけでもない。中学生と一緒にあったときの縦のつながりに非常に弱さを感じた。小学校でももう少し児童会活動をやっていく必要があり、中学校との接点を作ることでSTOPいじめの活動も有意義なものになっていくように思う。</p>
委員	<p>いじめをなくしていくためには、子どもたちの自主の力を高める必要があるため、小学校にも浸透するように今年から入れた。例えばうちの学校では生活委員会で、いじめ問題をストップさせるために取り組むといった位置付けを各学校で作っていただくきっかけになればと思う。できれば来年は、6年生の単学級だと限られるので、高学年にという意識も方向性としては大事と思っている。小学校のちょっとした文化を変えるきっかけになれば考えるので、よろしくをお願いしたい。</p>
会長	<p>小学生が自主的に組織して、自分たちで解決力が示される経験を始めることはもっと積極的であって良い。決して中学生だからできて、小学生ではできないのではない。もし、いじめ問題はみんなの問題だからみんなで話し合うことを子ども達が自主的にやれる土壌が生まれるとしたら、素晴らしいことだと思う。ぜひ、よろしくをお願いしたい。</p>
委員	<p>小学生と中学生とのギャップがもっとあると思っていたが、子ども達が非常に親しくスーッと入っている。それが米原の小規模学校の良さだ。笑顔でお互い最初から通じ合っている雰囲気があったので、もっと広げていくべきかと感じた。</p>
委員	<p>学区ごとにまとめられているのが非常に良い。子ども会の活動でも小学生、中学生、高校生という関係が地域にある。学区ごとでまとめることによって縦のつながりができる。こういった自主組織を見直すことは、いじめ問題だけではなく、違う方にも派生することもある。このフォーラムから様々な提案が出ているので、実行力を楽しみに期待していきたい。</p>

委員	フォーラムで取り上げられた学区ごとのチャレンジは内容もすばらしいが、この実施結果は検証されたり、フィードバックされるのか。
事務局	<p>今回初めての試みとして学区ごとで実施した。これまで検証はないが、これから機運を高めていくためにも、その後どうなのかアンケートを取らせていただく。校長会等でフィードバックしていき、来年度以降につなげていくことで検討を進めていきたい。</p> <p><b>【意見交換】</b>  テーマ「米原市の実情から考える」（事務局説明）</p>
会長	ただ今のテーマについて、それぞれの立場も含めて感じておられることやここで話してみたいことがあれば、忌憚なく意見をいただきたい。
委員	本年度、当署においていじめに関する事件の取扱いや相談は現在のところない。ただ、現状をもって良しと考えるつもりはない。特にネットのいじめなど、匿名性が高く不特定多数の者から誹謗中傷等が行われ、閉ざされた空間の中で発見しにくいことがある。そういったネットのいじめ等を早く発見するためには、親や先生に何でも相談できる環境が大事ではないかと考えている。ネットを使用する上で、子どもが被害者にも加害者にもならないように様々な啓発、防犯相談等をこれからも随時やっていきたいので、遠慮なく相談いただければ力になっていく。情報共有が一番大事なので、よろしく願いしたい。
会長	ネット、スマホ、SNS等の関係で、学校現場での事案や兆候はあるか。
事務局	本年度、ラインに悪口を書いたという誹謗中傷が1件中学校であった。そういうことに関わってくることは学校でも一番心配である。そのため、啓発として研修会等を年に1回か2年に1回くらい子どもたちや保護者も含めて計画しながら、未然防止発見に努めている。
委員	<p>法務局では、主に人権擁護委員と協力、連携して活動をしている。インターネットやスマホについて、大きく分けて3つの取組をしている。1つ目は子どもの人権SOSミニレター。これは全国の小中学生全員に配布しており、身近な人などに相談できないことを法務局に手紙を出していただいている。なお、必要に応じて学校側に情報提供をさせていただいている。昨年度は米原市内では5件、うちいじめに関する内容は1件あった。今年度は6件、うちいじめに関する内容は1件だった。</p> <p>2つ目としては、人権教室を開いている。これは人権擁護委員が中心となって、小学校の3、4年生を対象として、主に12月の人権週間の期間中に行っている。昨年度は7校で304人、本年度は9校で361人を対象に</p>

委員	<p>人権教室を1時間、学校に協力していただいている。</p> <p>3点目はスマホ・携帯人権教室として、米原市の小学校は今年から取り組んでいる。携帯電話会社と連携をして、授業の最後に人権擁護委員からスマホによるいじめについてのお話をいただいている。今年度は12月以降、3校の小中学校306人を対象に行う予定だ。</p> <p>SOSミニレターだが、以前、市内の子どもが「死にたい」という訴えがあって、非常にドキッとして、学校で大丈夫なのか教師とやり取りをした覚えがある。先ほどのいじめに関する件数だが、重さはどのようなものなのか、分かれば教えていただきたい。</p>
委員	<p>重さと言われても難しいが、去年は小学校4年生の男子で言葉によるものだ。それが学校に提供した事案かどうか分からない。</p>
委員	<p>常日頃、いくら学校は大丈夫と思っていても、突然、自死に至るとするのが一番怖いので、敏感にならざるを得ない。ないことを願っているが、常に現場、教育委員会も一番恐れており、そうなるはならないという意識は大事にしている。そういった重い事案があれば、連携のもとにお願いしたい。</p>
委員	<p>昨年10月のいじめの調査だが、増えていることは認識が高まっているから良いが、小学校の低学年が滋賀県でも1.4倍に増えているのが非常に気になる。生徒会フォーラムなどに小さい子が入れてもらうとすごく育てていくが、小学校に来るまでの子どもの育ちが非常に危ない。</p> <p>それと、特に家庭、地域社会の中で、人権を大切にするという気持ちを育てる面が非常に薄れていると思う。子どもたちが、全く人の痛みを分かるという育ちができてない。米原市の啓発活動だが、どういう場合に家庭や地域社会に啓発していけるのか、働きかけについて考えさせられる。</p> <p>もう1点はネットのいじめだが、人の力ではスマホ等には追いつけない面がある。確かに会社や企業が一緒になって子どもたちのスマホの使い方やフィルタリングとかもしているが、もっともっと企業が器機の性能面で改良を加える働きかけができないのかと思う。</p>
会長	<p>親の児童虐待やネグレクトとか、水面下では様々な事象が出ている。</p> <p>たまたま昨日、東京に行って地方自治専門の学者の話聞いた。明治時代に外国人が来た際、異句同音に日本人の姿を見て特徴的だったのは、非常に日本人の大人が謙虚であり、礼儀正しいということだ。次に出てきたのは、大人が子どもをものすごく大事にしており、子どもたちが本当によく笑っている。なんと、日本はゆったりと子どもたちを優しく穏やかに育てているのかという驚きをもっていた。今、そんな社会になっているのか。どうも危うい地域社会なり、家庭なり、私たち親世代も含めて子どもに向</p>

委員	<p>き合う姿を今一度取り戻さないといけないと思う。</p> <p>カスタマーハラスメントという言葉がある。例えばコンビニやレストランの店員などにいじめる行為をして、それをSNSにあげて楽しむようなことがある。人をいじめることの面白さみたいなものを子どもが見て、それができる時期になったらどんどんやっていく。しかも、それは幼児や判断能力のない子を持つてる親ほど多いとのことであり、そういった行為をもうちょっと見直していただかないといけないと思った。</p>
会長	<p>手を伸ばしたらバーッと手を払われるということで、生育している人がいる。人をいじめることで、もの凄く快感を覚え、上から目線でものを言うことが正しいと思い込んでいる大人がいる。そういうことも私たちが今生きている社会に、歴然と頭をもたげているということも事実だと思う。</p>
委員	<p>生徒会を中心に人権宣言をはじめ、交通安全宣言やSNS宣言とか、3つの宣言を子どもたちが頑張って掲げて、取り組んでくれている。学校としても、スマホやインターネットの安全教室、自転車のマナー等々に関わって交通安全の教室などの取組を毎年行っている。また、生徒指導の面では昨年から「三つの0（ゼロ）」として、「いじめ0」、「決まり違反0」、「事故事件0」を掲げていた。さらに、三つのKとして、「鍛える」、「決まりを守る」、「綺麗にする」を生徒指導担当から掲げ、学校教育目標とかを含めながら、子どもたちの目につくよう、階段等を利用しながらあちこちに啓発をやり、意識化を図っている。</p> <p>今年も6月と今週月曜日にアンケートを取り、それをもとに教育相談もしている。「学校は楽しい」という回答は、93%から94%に上がっている。94%あるから安心ではなくて、それ以外のわずかな子どもたちを見落とさないようにしながら進めている。アンケートの自己申告として、「いじめをした」というのが2件あり、「いじめを受けた」と主張しているのも11件あったので、事実確認と指導と経過を観察している。子どもたちの相談相手は37%が友達、37%は親、先生に相談するというのは約10%。市の集計からも、保護者から情報を得るといようなこともあった。とにかく今は、当人がいじめられたと意識があればいじめとして認知しているし、軽微なことまで一覧表にして経過を見ている。</p> <p>これは、中学校だけの取組だけではダメなので、小中の連携や地域との連携も必要である。去年、今年に関わっては、小学校から依頼があり、陸上や運動の練習で中学生が行って、交流もできて非常に身近であった。地域と連携をする中でやっぱり子どもを知ってほしいのと、どんなことでもいいから声かけをしてほしい。それと地域の人たちと子どもをつなぐ何か取組ができないかと思っている。地域の子どもたちを知っていただくということは、何かあったときも声をかけやすい。また、私はいつも生徒に、地域にも自慢してもらえ学校であってほしいということをよく言って</p>

委員	<p>いる。近江地区の良さは近江の人、近江の地域、近江の子どもであってほしいと思っているので、そんなことを意識しながら日々過ごしている。</p> <p>市内の小中学校長に、どのようないじめを早期発見する手立てをしているのか問い合わせをした。いじめに関するアンケートは、ほとんどの学校で毎学期やっておられ、全て「記名あり」でされている。教育相談もどの学校もおよそ毎学期に実施をしており、場合によっては、いじめのアンケートの実施後にされることもある。ただ、結局は教員と子どもとの信頼関係の上で初めてアンケートを通じた「いじめの訴え」があって発見できるので、アンケートと教育相談だけで全てをカバーできないと思っている。</p> <p>そこで、各小中学校にその他の発見の手立てを尋ねた。一つは保護者へのチェックシート型のアンケートであり、我が子がいじめにつながるような行為を受けていないかを、前もって発見していくようなことであった。多くの学校が児童観察以外の手立てがあまりないというのが現実である。特徴的な例としては、教育相談窓口を常設して、常に担当者の名前を保護者に公開している学校があった。また、本校の6年生に、担任がノートを半分に切って印刷物を渡して毎日やり取りをしているということも、発見の手立てになっていると思う。いずれにしても、小中学校の場合は教職員一人一人が日常で子どもを見取る能力を上げていかなければいけないと実感している。ただ、やっぱり担任の力量によって見取りの力にずいぶん差があるので、フリーの教師や管理職がフォローをしていく必要がある。</p> <p>もう一つ発見の手立てとして、電話による相談窓口があるが、現場の教師としては、学校にも保護者にも相談できずに相談窓口に電話してしまうというのは残念というか無力感に苛まれるところはある。しかし、そうならないように、あるいはそういうところには子どもがヘルプを出してないということが、学校として頑張っている一つのバロメータなのかもしれないと思っている。もし、相談件数が分かれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>市でも電話での相談窓口を設けているが、昨年度も0件でケースはなかった。しかし、相談できる窓口を広く作っておくということは大事だと思っている。後は大津市でラインによる相談をされていると聞いている。その辺の成果なり検証をしていくことも重要なことと思っているが、現状はそこまでは至っていない。</p>
委員	<p>中学1年生くらいから全休、そして中学校を卒業して、現在39歳くらいになる子が2年前から少年センターに通っている。そういった子が2人いるが、養育環境が課題となっている傾向がある。最近ちょっと心配なのは、その子の発達障害的なもの、知的障害的なものは本来小学校の低学年で発見されるべきものであろうはずなのだが、小中学校全て普通学級の中で過ごしている。30幾つになってくると、職業訓練校とか高校、特に通信高校があるので、もの凄く良く引き受けてくれる場所になっている。ただ、</p>

35 歳を超えてくると親は定年間近になり、子どものことが非常に心配になってきている。そのことが子どもなりにも分かってきているのか、前向きに1歩踏み出してくれている。最初、そういった35歳を超えた子どもには笑顔なんて何もなく、寄せ付けないオーラを発散しながら入ってくる。そして、1か月、2か月してようやく「トランプしようか」となる。何か遊んでいるように見えるが、そこでようやく笑顔が見えてくる。

一人、今まで20年間引きこもっていた子が、ようやく新たな事業所へ就職となりつつある。そういった子は家庭環境にいろんなことがあるが、外には一歩も出られないといったことを何とか自分なりに乗り越えてきた。それとか、女の子ではようやく作業所に就職したが、人とのコミュニケーションがとれない不登校だったことで、どうしてもしゃべり方を知らない。小中学校のときに、みんなと関わり合うことができなかつたのは、いじめの側から言ったら無視かもしれない。でも、そんな時代にいじめとかそんな調査もない。子どもが何日も続けて休みたいと言っていることでいじめられていると親が気付かれることもあるかと思うが、親も10年、15年、20年近くだと、そういったことに慣れてしまう。そして、ようやく歩き出し苦労するのはその子たち。

中学校の段階でいじめが何件あり、みんなの意識が高まってきて数字が出てきたということは凄いことだと思うが、そのいじめは結果だと思う。結果、いじめとなってしまったその時に、いじめた子は家庭環境があるかもしれないし、いじめられた子も家庭環境以上の様々なものがあるかと思うので、その根本的なものをこういう場で話し合っ解決していかなければいけないと思う。

実は少年センターは、今喜んでいる。一人ずつ見た子が前向きに歩き始めているときなので。市内にこういった子がたくさんいるので、私らもどうしていいかわからない。少年センターの「あおぞら」では、先生方があちこちとかけずり回ってやっていて、探っている状況である。小学校、中学校のいじめが下手すると、その子の10年、20年というものを引きずってしまうかもしれないということも考えていかなければいけないことをようやく最近気づかされた。

会長

引きこもりの問題は、驚くような話があちこちにあると聞いているが、今あったように養育環境やどう育ったのかだが、そこにはこう育って欲しいという親の願いや地域の人たちの思いも間違いなくある。お互いがどういう役割や責任を果たすのか、いろんな意見を今日は出していただいた。確かにすぐに解決するわけではないが、緊張感をもって向き合わない、人生、命に関わってくる問題であることを改めて感じたので、是非それぞれの立場でお力をいただきたい。

#### 4 山本教育長（閉会挨拶）

今日は長時間にわたり、いろいろな意見をいただいた。あるイベントが

	<p>あった際、母親が就学前の子どもが何かをこぼしたときに、虐待に近い厳しい言葉をかけていた。そのように四六時中、家庭で親から投げかけられたら、子どもはどう育つのか。ひょっとしたら、この子は学校や園で誰かにそういった言葉を投げかけるかもしれない。「いじめ育て」がある。親が無意識のうちにいじめを育てていることに気づかない。そういう中で子どもは何らかの段階でサインを出しているが、親は全然気づかない。それが中学校になってブーメランのようになって親に帰ってくる。そこで親はどうしようもないという悪循環が結構あるということの本で読んでいたときだったので、これだなと思った。子育ての中で大事にしてほしいことは何かを啓発していく必要がある。</p> <p>次回からは家庭や地域でもっとこんなことをしてもらえないか、この会議で議論して何か作って啓発していく方向性ができると良い。また、いろいろな立場で意見をいただければありがたい。</p> <p>本日は、大変遅くまで議論していただき、ありがとうございました。</p>
--	--

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p><input type="checkbox"/>公開  <input checked="" type="checkbox"/>一部公開  <input type="checkbox"/>非公開  一部公開または非公開とした理由  (米原市情報公開条例第7条第1号および第5号の規定による )</p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p><input type="checkbox"/>開示  <input checked="" type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等:米原市情報公開条例第7条第1号および第5号)  <input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等: )</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無  録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p>
<p>担 当 課</p>	<p>総務部 人権政策課 (内線91-121)</p>